

民國文獻資料叢編

民國時期
經濟調查
資料續編

鄭成林
選編

國家圖書館出版社

鄭成林 選編

民國時期經濟調查資料續編

第二冊



國家圖書館出版社



民國時期文獻
保護計劃

成果

第二冊目錄

廣東經濟調查報告 (日)大塚令三著, (上海)中支建設資料整備委員會, 一九四〇年鉛印本	一
新會縣經濟狀況調查 《經濟月報》一九四四年第二卷第五期	五九
順德縣經濟狀況調查 《經濟月報》一九四四年第二卷第五期	六七
東莞縣經濟調查報告 譚伯偉著, 《廣九季刊》一九三七年第三、四期合刊	八一
資中與內江調查報告 中國農民銀行總行編, 中國農民銀行總行, 一九三六年鉛印本	九一
北支豫定鐵道調查報告 (經濟篇其一)——承通綫、通唐綫、津石綫、滄石綫、德石綫、高徐綫)	
支那駐屯軍司令部乙囑託班編, 支那駐屯軍司令部乙囑託班, 民國間鉛印本	一三五

編譯彙報 第二十六編 (昭和十五年八月)

廣東經濟調查報告

中支建設資料整備委員會

(上海·興亞院華中連絡部內)

編譯彙報發刊の辭

曩に江南諸地に於ける支那側諸官衙・學校・圖書館等に所藏してあつた文化資料の類が、戦火の餘波を蒙りたるまゝ、徒らに放置・散佚されつゝあつた實情に鑑み、上海派遣軍特務部は、南滿洲鐵道株式會社上海事務所・東亞同文書院及び上海自然科學研究所の協力を要望し、昭和十二年十二月占領地區圖書文件接收委員會を組織して、これが接收・保管に當らしめた。同委員會は、硝煙未だ去らざるに挺身克く江南各地に赴き、困苦缺乏に耐へてこれら文化資料の接收保存に努め、南京に於いて接收せる圖書類だけでも大約六十萬冊に及び、昭和十三年孟夏の節に到つて漸くその第一次假整理を終了した。その獻身以て崇高なる文化復興の基礎確立に貢獻したところ、誠に偉大である。次いで、同年八月末中支文化關係處理委員會の新設を見るや、占領地區圖書文件接收委員會は解散せられてその事業を繼承し、更に本格的整理が開始されたが、昭和十四年三月興亞院華中連絡部の新設せらるゝに際して、本會はその所管に入り、同年四月再び陣容を改めて中支建設資料整備委員會の成立を見、その間多大の成果を挙げつゝ今日に到つたのである。

而して、本事業の完成には今後尙ほ相當の日子を必要とするが、多數圖書文件中には、南京政權十年の業績を窺ふべき冊子も多く、支那の經濟一般・資源開發に資すべき好資料も亦鮮からず、いまや東亞新秩序の

建設その緒に就かんとするに當面し、支那の經濟復興・開發に寄與すべき資料の甚だしく缺除せるに鑑み、これら資料類の急速なる利用方策を樹てむとし、中支建設資料整備事務所に編譯部を設けて、逐次翻譯出版することとした。江南諸地に於ける現情勢は、尙ほ實體調査の圓滑なる進行を妨ぐるものあり、且つは支那事變前に於ける支那側諸機關の調査せる報告類にも信憑するに足るものありと雖も原文の儘にては之を利用し難く、而も經濟建設工作の根幹たるべき基礎資料の供給が、各方面から冀期せられあるので、斯かる急需に應ずべく、差當り經濟建設に必要な諸資料類約二萬頁の翻譯を計畫し、素材の儘急速に之を刊行する豫定である。尙ほ『編譯彙報』の内容は、經濟一般・農産物・鑛産物・交通及び水利等の各項に互るが、之を分類編纂するの暇なきを以て諒とせられたい。

本書が、東亞新秩序建設の基礎的資料として、帝國の支那事變處理に些少なりとも貢獻するところあらば幸甚である。

昭和十四年十二月十八日

中支建設資料整備委員會

委員長 楠 本 實 隆

解 說

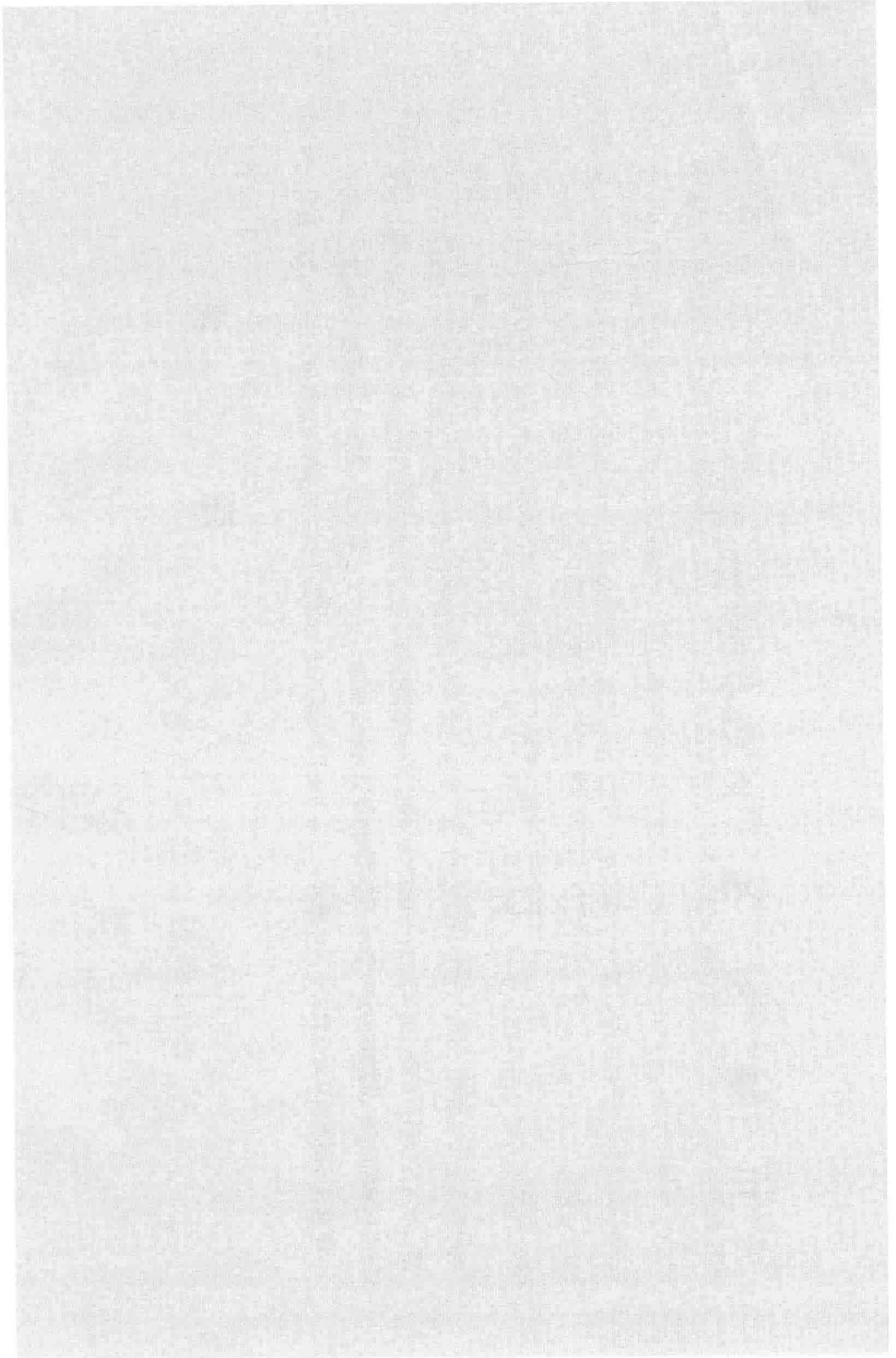
一、本編は國立中山大學經濟考察團專刊第一種たる『現段階底廣東經濟』（民國廿三年刊執筆者は羅劍聲、邱慶鏞、李宏略、蘇景雲、梁灝才の五名）の全譯であるが、廣東省營工業の發展傾向、その工業化の程度、民間新興工業並に各地商工業の現状、盛衰、工業労働者の概況、農業經濟概況、製絲業の衰微と發展計劃、金融恐慌等に就て、簡結にして要領よき解釋を與へ、廣東經濟の概觀を得るに便である。殊に製絲業の發展に當り、彼等が日本生絲を假想敵として對策を樹立すべきことを提唱せる點の如き、吾々の三思すべきところである。

一、原文には章節の區分なきも、校閱者に於て讀者の便宜を圖り、適宜これを附した。

一、本編の翻譯は之を部外に委囑し、校閱は編譯部員田中忠夫、有田福三が之を擔當した。

昭和十五年五月

中文建設資料整備事務所長 清水董三



廣東經濟調查報告 目次

第一章 廣東省營工業の評價	一
第二章 廣東商工業概観	九
一 工業化の程度	九
二 新興工業	一一
三 各地商工業の現狀	一四
四 勞働狀況	一五
第三章 廣東農業經濟概観	一六
一 農業經營形態	一六
二 耕地分配狀況	一八
三 糧食需給問題	一九
第四章 廣東製絲業問題	二二
一 廣東製絲業の衰微とその數字的考察	二二

二 製絲業の復興と技術的改良……………二四

三 市場は生産を決定する……………二九

四 確乎たる市場政策の必要……………三〇

五 人造絹絲の發展より天然蠶絲の前途に言及す……………三三

六 日本製絲業の浮動的基礎……………三六

七 我々の樂觀……………四〇

第五章 最近數年來に於ける廣東金融恐慌……………四一

第六章 民國十六年乃至二十二年廣州卸賣物價指數……………四三

【附錄】 國立中山大學經濟考察團調查計劃摘要

廣東經濟調查報告

第一章 廣東省營工業の評價

一

世界資本主義發展の順序 産業資本と商業資本の兩段階に於ては、其の原料の輸入と商品の輸出とを計るためには、どうしても自國以外にこの商品及び原料の賣買市場を求めざるを得ない。更に金融資本の段階に至つては、其の過剩資本を輸出せしむるためには、又自國以外に資本の投資地を求めざるを得ないのである。然らざればその生存を維持し、その發達を助長することは出来ないし、十八世紀産業革命以後、各工業先進國は何れもこのコースを辿り、この目標に向つて競争したのである。

中國は二十世紀以前に於ては、純粹なる農業國であつた。二十世紀以後、資本主義の刺激を受けて、始めて幼稚なる工業が漸次に發展して來たが、斯くの如き兩種の状態の下に於て、言ふまでもなく典型的な資本主義者の資本投下地、商品原料賣買市場となつたのである。資本主義者達は、遂に各々其の優越なる軍事的政治的勢力を頼み、争つて我が國より掠奪し、其の經濟的侵略の大慾を遂行した。中國の工業は之がために萎靡し、中國の農業は之に因つて衰微し、是に於て全經濟機構は直ちに重患を宣告されるに至つたのである。

社會生活は生産方法に基いて決定されるが、従つて生産方法の變化は社會生活の進化に適應し或は社會生活の改造をなし得るのである。中國は積弱にして半殖民地の社會に沈淪し、其の工業上農業上の舊生産方法は、勿論其の生存を維持することが困難となつたが、若し目下の半殖民地化的生産方法に應じて進行すれば、又遂に工業國の犠牲となるであらう。そこで假令模倣して資本主義化的生産にまで發達しめやうと思つても（資本の缺乏と世界經濟の極端を受けることに因つて、當然これは不可能なことであり、或は又不必要なことであるかも知れない）、精々一步先進資本主義國の後塵を拜して、其の搾取と壓迫に委せらるゝ外はない。かゝる時期に於ては、工業上農業上に於て、只孫總理の「人に先んじてやる」といふ原則の下に於て、其の生産方法を變化して、生産力の發展を促進し、然る後に近代に於て二回の産業革命を経て形成されたる資本主義的新環境の活動に適應し、危急を免れ得るであらう。

二

今單に工業に就ていへば、辛亥革命以後、國民は既に新しき生産方法を利用して工業を發展せしめることの重要なを知るに至り、従つて國內に於ける各工業中心地たる上海、天津、武漢、廣州、哈爾濱等の如き處に於ては國營工業或は民族工業が、雨後の筍の如く紛々と擡頭して來た。

廣東に於ては、革命以來公私工業とも、その發展は鬱勃たる現象を呈してゐる。其の公營工業の加速度的發展は近年來の事であるが、それは廣東省政府の三年計畫の施行が所謂「精勵治を圖るの精神と遠大なる着眼」に基いて、工業建設に重きを置いたがためである。試に民國二十二年度の省金庫支出を見るに、總額五六、四五二、七六九・九四元の中、建設費は七、七五二、九一〇・四九元にして、一三・七三%を占めてゐる。若し各種行政費（黨務、行政、司法、財務、教育文化

農礦、工商、交通費を含む)二二、四六九、四七〇・六〇元と比較すれば、其の比率は更に大にして三四・五%を占めてをり
 執政者が此の方面に對して重視してゐることが判る。故にセメント工場が早く建設されてゐる者を除いて、過去一年半の
 間に於ける既設未設工場は合計十六ヶ處に達してをり、今、次にこれを列示するであらう。

A 既設のもの

工場名	資本總額	實際支出額	月産額	年純益見積額
一、酒精工場	四〇四、七八四・〇〇	三五三、三一〇・〇〇	四、六八〇擔	
二、硫酸工場	八九九、〇三六・〇〇	九四九、三三七・〇〇	四五〇噸	四一二、二五四・〇〇
三、ソーダー工場	一、四〇〇、〇〇〇・〇〇	一、〇一九、〇一二・〇〇	一八〇噸	二八七、一〇〇・〇〇
四、木炭自動車爐工場	三〇、〇〇〇・〇〇	一〇、二二九・〇〇	三〇臺	一二六、〇〇〇・〇〇
五、第一蔗糖工場	二、二〇一、三八五・〇〇	一、八〇二、九四七・〇〇	七二、〇〇〇擔	
六、紡織工場				
A、絹織部	四六五、九二八・三六	四三七、四六二、〇〇	三〇、〇〇〇碼	三九、九三三・六〇
B、製糸部	一七〇、八〇〇・〇〇	四一、五五八・〇〇	二〇擔	五、〇八二・三六
C、麻絲水結部	六四六、二八八・三〇	四七五、五八二・〇〇	五、〇〇〇磅	四九八、八四〇・〇〇

B 未設のもの

工場名	豫定資本總額	實際支出額	豫定月產額	年純益見積額
一、製紙工場	八、二二五、四四〇・〇〇	一、五三五、〇九五・〇〇	一、五〇〇公噸	
二、飲料工場	一、〇二一、六〇〇・〇〇	七三、三八〇、〇〇	一〇五噸	
三、肥料工場 磷酸肥料 窒素肥料	一、六七、〇〇〇・〇〇 三、四二三、六八〇・〇〇	二一、六一、六五五・〇〇 三五八、一八六・〇〇	一、五〇〇噸 六〇〇噸	
四、紡織工場				
D、棉紡部	二、九一六、〇六〇・〇〇	八六一、三四三・〇〇	三六〇、〇〇〇封度	
E、毛織部	九四八、〇〇〇・〇〇	二三〇、八七九・〇〇	一、〇〇〇碼	七一六、九〇〇・六八

C 計畫中のもの

工場名	豫定資本總額	實際支出額	豫定月產額	年純益見積額
一、鋼鐵工場	三八、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	六七、三〇九・〇〇	生鐵約九、〇〇〇噸	
二、滄江水電處	三四、三〇〇、〇〇〇・〇〇	八、六八六・〇〇	四〇、〇〇〇瓩	

D 補充のもの

工場名	資本總額	實際支出額	月產額	年純益見積額
一、西村セメント第二期 掘付機械	二、三二七、一五八・〇〇	一、五八四、八九三・〇〇	六、〇〇〇公噸	七二〇、〇〇〇・〇〇

(註) 本表の根據とするもの

(1) 廣東建設廳長何啓邊の『二十三年度廣東建設概況』中の數字。

(2) 廣東省調查統計局出版『工業建設書』中の數字。

(3) 建設廳にて調査して得たる數字。

其の中『C計畫中のもの』には尙ほ西村新電力廠、廣南造船廠、陶器廠があるが、(1)の中に其の資本總額及び産額を列記せざるため之を省略することにした。

三

上表により直ちに次の統計が見られる。——省營工業豫定の資本總額は七九、五四七、一五九、六六元にして、其の中既設各工場六、三一八、二二一、六六元、未設各工場一六、七〇一、七八〇、〇〇元、計畫中各工場七二、三〇〇、〇〇〇、〇〇元、補充のセメント工場二、三二七、一五八、〇〇元である。過去一年半の實際支出總額は一〇、〇二〇、八六三、〇〇元にして、其の中既設各工場五、〇八九、四三七、〇〇元、未設各工場三、三七〇、五三八、〇〇元、計畫中各工場七五、九九五、〇〇元、補充のセメント工場一、五八四、八九三、〇〇元である。百分率を以て表示すれば、下表の如くである。

	資 本 總 額	實 際 支 出 額	實際支出額對資本總額
A、既設のもの	六・三七%	五〇・七八%	八一・八五%
B、未設のもの	一七・一二%	三二・六三%	一九・五八%
C、計畫中のもの	七四・一二%	・七五%	・一一%
D、補充のもの	二・三九%	一五・八四%	六八・一〇%

五